

特定非営利活動法人ジャパンハート

2025年度 通常総会

議 事 次 第

1. 日時: 2025 年 6 月 19日 (木) 18:00～20:00
2. 開会・進行 理事長 吉岡 春菜
事務局長 佐藤 抄
3. 理事長挨拶 吉岡 春菜 理事長
4. 議長選出 出席正会員の中から選出 (定款第 24 条)
5. 定足数の確認 (定款第 25 条)
6. 議事録署名人の選任 2 名 (定款第 28 条)
7. 議事 議長
第1号議案 2024 年度事業報告の件
第2号議案 2024 度決算報告の件
監査報告
第3号議案 2025 年事業計画(案)審議の件
第4号議案 2025 年予算(案)審議の件
第5号議案 会費金額の変更の件
第6号議案 役員改選の件
8. 閉会 議長

第1号議案

2024年度事業報告

I 組織活動状況

1. 通常総会

日時:2024 年 6 月 21 日(金) 18:00~20:00

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事: 理事長 吉岡春菜
事務局長 佐藤 抄
第1号議案 2023 年度事業報告の件
第2号議案 2023 年度決算報告の件
監査報告
第3号議案 2024 年事業計画(案)審議の件
第4号議案 2024 年予算(案)審議の件
第5号議案 役員改選の件

上記議案について審議され、異議なく承認された。

2. 理事会

(1)第 1 回理事会

日時:2024 年(令和 6 年)4 月 18 日(木)8:30~9:30

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)
第1号議案 月次共有(事業、組織、広報)
第2号議案 能登半島地震支援の進捗報告について
第3号議案 国内寄付獲得状況について
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(2)第 2 回理事会

日時:2024 年(令和 6 年)5 月 24 日(木) 8:30~9:30

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)
第1号議案 2024 年度通常総会資料の承認について
第2号議案 月次共有(事業、組織)
第3号議案 2024 年度能登半島地震支援の進捗報告について
第4号議案 2024 年度のマーケティング施策について
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(3)第 3 回理事会

日時:2024 年(令和 6 年)6 月 24 日(月) 12:10~12:20

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)
・理事長、副理事長の選定について
上記議案について審議され、異議なく承認された。

(4)第 4 回理事会

日時:2024 年(令和 6 年)7月 18 日(木) 8:30~9:30

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 月次共有(事業、組織)

第2号議案 国内寄付獲得状況について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(5)第 5 回理事会

日時:2024 年(令和 6 年)8 月 15 日(木) 8:30~9:30

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 月次共有(事業、組織)

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(6)第 6 回理事会

日時:2024 年(令和 6 年)9 月 19 日(木) 8:30~9:30

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 団体設立 20 周年セレブレーションについて

第3号議案 月次共有(事業、組織)

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(7)第 7 回理事会

日時:2024 年(令和 6 年)10 月 17 日(木) 8:30~9:30

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 団体設立 20 周年セレブレーションについて

第3号議案 月次共有(事業、組織)

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(8)第 8 回理事会

日時:2024 年(令和 6 年)11 月 21 日(木) 8:30~9:30

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 月次共有(事業、組織)

第2号議案 能登半島地震、大雨災害支援報告

第3号議案 国内寄付獲得状況について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(9)第 9 回理事会

日時:2024 年(令和 6 年)12 月 19 日(木) 8:30~9:30

場所:オンライン上(zoom を用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 月次共有(海外事業)並びに、カンボジア薬剤師による不正行為の件について

第3号議案 月次共有(国内事業、組織)

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(10)第10回理事会

日時:2025年(令和7年)1月16日(木) 8:30~9:30

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 月次共有(事業、組織)

第2号議案 国内寄付獲得状況について

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(11)第11回理事会

日時:2025年(令和7年)2月21日(金) 8:30~9:30

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 国内寄付獲得状況について

第2号議案 月次共有(事業、組織)

上記議案について審議され、異議なく承認された。

(12)第12回理事会

日時:2025年(令和7年)3月27日(木) 8:30~9:30

場所:オンライン上(zoomを用いて開催)

議事:(議長 吉岡春菜理事長)

第1号議案 2025年度予算案(概要について)

第2号議案 国内寄付獲得状況並びに、2025年度のファンドレイジングに関する計画方針

第3号議案 月次共有(事業、組織)

上記議案について審議され、異議なく承認された。

3. 会員状況

2025年4月1日現在の会員数

		2024年4月1日現在	2025年4月1日現在
正会員	医療者	260人	272人
	一般	158人	153人
	学生	5人	7人
	法人	46社	48社
正会員合計		469人・社	480人・社
賛助会員	個人・法人	207人・社	226人・社

4. 事務局

(1)2025年4月1日現在の組織体制

事務局長以下の正職員 25名(日本雇用)+契約職員 16名(日本雇用)+現地採用職員(現地人含む)
+パートタイム・経理顧問

◇東京事務局(本部)

事務局長
事務職員

佐藤 抄(COO)
杉山 智哉(管理本部長 / CAO)
高橋 茉莉子(災害支援・対策セクションリーダー)
飛田 智子(災害支援・対策セクション)
松本 愛(災害支援・対策セクション)
田中 志帆(災害支援・対策セクション)
吉岡 春菜(スマイルスマイルプロジェクト セクションリーダー)
伊藤 和子(スマイルスマイルプロジェクト)
山田 友恵(スマイルスマイルプロジェクト)
高橋 萌(スマイルスマイルプロジェクト)
川原 沙菜(スマイルスマイルプロジェクト)
岩田 剛(管理セクションリーダー / 経理担当)
ラガヴェンドラ雅江(管理セクション 総務・海外総務担当)
吉浦 ゆず香(管理セクション)
皆川 夏子(マーケティンググループリーダー / 営業担当)
横山 菜々子(マーケティンググループ マーケティング担当)
岸 美貴子(マーケティンググループ WEB 担当)
渡辺 彬衣(マーケティンググループ 営業担当)
中山 佳子(マーケティンググループ 営業担当)
佐藤 樹(マーケティンググループ 営業担当)
上村 可南子(マーケティンググループ メディア担当)
鈴木 知美(メディカルヒューマンリソースセクションリーダー)
伊藤 千晶(メディカルヒューマンリソース)
武内 三恵(メディカルヒューマンリソース)
菅原 千佳(カスタマーリレーションセクション)
伊地知 葵(ヒューマンリソースセクション 採用担当)
星 心愛(ヒューマンリソースセクション付け 新卒職員)
真鍋 優花(ヒューマンリソースセクション付け 新卒職員)

石毛 宏一(経理顧問)
気賀 紫都佳(カスタマーリレーション
支援者サービス担当 パートタイム)
栢田 眞弓(災害支援・対策セクション パートタイム)
久保田 まいこ(海外事業セクション パートタイム)
北中 遥(マーケティンググループ パートタイム)

◇佐賀事務所 田中 沙織(マーケティンググループ マーケティング担当)

◇ミャンマーオフィス 佐藤 抄(オフィスマネージャー)
河野 朋子(専門医療活動事業担当者)
那須田 玲菜(DreamTrain 事業担当者)
小林 裕二(プロジェクトコーディネーター)

他スタッフ 61 名

◇カンボジアオフィス 佐藤 抄(オフィスマネージャー)
神白 麻衣子(CMEO / ジャパンハートこども医療センター院長)
藤井 祐美子(看護部長)

小鯖 貴子(看護統括責任者)
鰐川 音寧(看護師)
里見 春佳(アドミニストレーター)
大江 隼人(ロジスティシャン / メディカルエンジニア)

他スタッフ 104 名

◇ラオスオフィス

松原 遼子(オフィスマネージャー)
関山 弘子(看護師)
根釜 宏平(看護師)

他スタッフ 5 名

(2)組織・経営戦略・管理部門に関する事項

■人事・採用

1. 採用活動

- ・採用管理システムを導入し、採用状況をリアルタイムでウォッチ。歩留まりを確認して、定期的な改善を加えた。
- ・年度目標としていた採用計画については、25 年度分を 24 年度内に作成することができ、これまで以上に計画的な採用を進めるための下準備が完了した。
- ・採用チャネルの選定を行い、最終的には 1 本に定めることが完了。
- ・新卒スタッフ 2 名の採用を実施。

2. 人事・組織

- ・人事評価制度の運用初年度となる中で、様々な課題も見つかったが、一通りのフローを実践。
- ・キャリア面談を定期的に行い、業務以外の不安ごとや悩み事をキャッチアップできる体制を整えることができた。

■経理・財務

- ・クラウド型経費精算システム導入。電帳法対応、また AI による自動入力・仕訳、会計ソフトとの連携など、経費精算に関する業務を効率化する。
- ・ミャンマー事業における現地活動費用資金の手配。
- ・主にアジア小児医療センター建設にかかる外貨の準備。
- ・適切な資金流動性の維持を目的とした、口座資金分散の計画(緊急災害時の対策も含む)。

■組織・労務

- ・クラウド型の勤怠管理ツールを導入し、業務の効率化を図った。

■不正事案への対応とガバナンス強化について

2024 年度、当法人のカンボジア拠点において、医薬品等の購入に関連し、職員が実際とは異なる振込先を指示して金銭を不正に取得する事案が発生しました。

発覚後は速やかに調査を実施し、当該職員による全額の補填が完了しております。

また、本事案に関し、当該拠点の管理監督者である事業部長および病院長の 2 名に対し、就業規則第 51 条に基づく「減給」の懲戒処分を行いました。

さらに、理事長に対しても、事業責任者の業務に対する管理が不十分であった点を重く受け止め、厳重注意を実施しております。

再発防止に向けては、発注・支払に関する業務フローの見直し、内部監査体制の強化、人材の再配置など、体制整備を進めております。

今後も、透明性と健全性の高い組織運営を目指し、継続的な改善と信頼回復に努めてまいります。

II 事業報告 / 海外

海外事業セクション 東京オフィス

1. 事業推進

・海外事業全体の中長期計画再策定 アジアにおけるジャパンハートのプレゼンスと事業の持続性強化に向け、海外全拠点を対象とした中長期的な事業計画の見直しに着手。2025 年以降の重点分野および人材育成・資金調達戦略の方向性を整理した。

・カンボジア事業 2025 年 10 月の開院を目指し、「ジャパンハート アジア小児医療センター」建設プロジェクトを本格化。建設業者・医療機器調達先との交渉を進めるとともに、支援企業の開拓および協賛枠設計、VIP 病室導入等、運営の持続性を見据えた準備を推進。病院のブランド価値向上および国際連携促進のため、関係省庁・外資系企業・医療団体との連携も継続的に強化中。

・ミャンマー事業 国内情勢が依然として不安定な中、現地拠点と連携し、医療活動の安全確保と対象地域の選定を慎重に進行。ミャンマー政府・関係機関との信頼関係維持に努め、必要な行政手続きやリスク管理体制を随時更新。

・ラオス事業 小児医療プロジェクトに向け、現地パートナーや関係者と連携しながら制度設計・運営モデルの構築を支援。

2. 海外での資金調達・認知度向上

・従業員寄付プラットフォーム(海外)での成果拡大 Benevity 等の国際的寄付プラットフォームを通じた海外企業従業員からの寄付獲得に注力。登録団体としてのプレゼンスを強化し、前年対比で寄付金額が増加。企業向けコミュニケーションツール(報告書、活動報告動画等)の多言語対応を強化し、寄付者エンゲージメントを高めた。

・UNIATF Award 2024 の受賞 国連「NCDs に関する行動タスクフォース(UNIATF)」より、アジア地域における NCD 対策への貢献が認められ、2024 年度の受賞団体として表彰された。これを機に、グローバルヘルス領域での国際的認知度が向上し、今後の他国展開や国際連携の基盤強化にも寄与。

・国外資金調達のための調査・施策 ASEAN 諸国を中心に、日本以外の国での資金調達可能性について調査を実施。寄付文化や制度環境の違いを踏まえた資金調達戦略を整理。カンボジア国内における寄付型イベントの開催や、在外邦人・企業向けの寄付プロモーション活動を一部展開し、今後の拡大に向けた土台を構築。

ミャンマーオフィス

1. 医療活動

1) ワッチェ慈善病院を拠点とした医療活動

・ワッチェ慈善病院での日本人医療者参加による手術活動を年間 12 回に渡って実施し、5,957 名(うち子ども 1,120 名)に対する外来診療と共に、748 件(うち子ども 211 件)の手術を実施した。

・ミャンマー人医療スタッフの医療技術および知識の向上のため、ミャンマー人医師 2 名に対してカンボジアのアジア子ども医療センターでの麻酔研修を行った。

・Rainbow Bridge Clinic では、2024 年 4 月～11 月末までの8ヶ月間で、1,088 人(うち子ども

357 人)の診察を実施した。

- ・2024 年 12 月よりヤンゴンでの医療活動拡大のため、市内ダゴンセイツカン地区の慈善病院内に「Rainbow Bridge Clinic」を移設すると共に、手術活動を開始した。
- ・ダゴンセイツカン慈善病院にて、2024 年 12 月～2025 年 3 月までの4ヶ月間で、714 名(うち子ども 21 名)の外来診察と、37 件(うち子ども 3 名)の手術を実施した。

2)その他の医療活動

- ・小児外科・小児心臓・口唇口蓋裂の各専門分野において、年間のべ 20 名の日本人専門家を招聘し、現地の医療者に対する技術指導とともに、合計で 350 件の手術を実施した。
- ・各分野での専門家招聘数は、口唇口蓋裂分野 2 名・小児外科分野のべ 15 名・小児心臓分野 3 名の合計 20 名で、治療分野の内訳としては口唇口蓋裂手術 259 件・小児外科手術 61 件・小児心臓病カテーテル治療30件となった。
- ・口唇口蓋裂分野においては、2019 年度より育成してきた現地口腔外科医 6 名がトレーニングを修了し、国内各地での口唇口蓋裂手術活動に参加した。

2. ミャンマー医療人育成事業

- ・一般財団法人 新倉会のサポートにより、医学生 2 名と看護学生 2 名が無事に大学を卒業した。また新たに奨学生の募集を行なって医学生 3 名と看護学生 2 名を新規採用し、奨学生は合計7名(医学生 4 名・看護学生3名)となった。

3. 社会福祉関係

1)養育施設 Dream Train(ドリームトレイン)

- ・ ザガイン管区、シャン州、エーヤワディー地方域、バゴー地方域に加えて、これまで受け入れ実績のなかったカヤー州とタニンダーリー地方域の計 6 地域から、新たに 17 名の児童を受け入れた。2024 年 3 月末時点での在籍児童数は合計 118 名となった。
- ・ 新棟建設プロジェクトを開始し、外部団体と連携して基本計画と設計、日本 NGO 連携無償資金協力をはじめとする助成金申請の準備を進めた。
- ・ 2023 年度の大学入試では、進学希望者 11 名のうち 5 名が合格。
- ・ 私立学校に通う児童のうち、小学生 3 名と中学生 6 名の計 9 名が、1 年を通じて好成績を収め、学校から表彰を受けた。
- ・ 槍投げ、400 メートル走、サッカーの分野で、3 名がヤンゴン管区代表に選ばれた。
- ・ 日本語教育において、ミャンマー人講師に加え、日本人長期日本語講師ボランティアによる授業を実施。日本語能力試験では、3 級 - 3 名(7 名)、4 級 - 3 名(4 名)、5 級 - 8 名(9 名)が合格した。*括弧内は受験者数
- ・ Dream Train への寄付プログラムを整備。寄付者向けの Dream Train メルマガの配信開始や、里親募集を計画建てで行うなど、プログラムを安定的に運営する体制を整備した。

2)ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

- ・1 年間の医療マッサージトレーニングプログラムを継続し、合計8名の卒業生を輩出することができた。
- ・日本人の医療マッサージの専門家を招聘しての特別講義を実施してマッサージ技術向上を図った。

3)サイクロン孤児支援活動

- ・2名の子どもの状況に合わせた、学費および医療費の支援を実施した。

カンボジア

1. 医療活動

1) ジャパンハートこども医療センター

2025 年の新病院建設を見据え、今年はカンボジア現地の医療スタッフの育成、看護師の採用強化をおこなった。

年間外来者数

・成人 20,339 人(昨対比 101%)、小児 4,006(昨対比 103%)と昨年度を上回った。インフルエンサーによる拡散やカンボジア国内での新病院建設のリリースもあり、患者数は増えたが、小児外来患者数に関しては目標の 5,000 名には未達(達成率 80%)となった。

年間手術件数

・成人 1,678 件(昨対比 169.5%)、小児 335 件(昨対比 109.1%)と昨年度を大きく上回った。短期ボランティアや認定医の先生方の受け入れも昨年同様、継続している。

年間入院件数

・成人 1,035 件(昨対比 101%)、小児 360 件(昨対比 110%)と昨年度を上回った。また、小児が
ん新規患者入院数は昨年 81 人、2024 年度は 72 人であった。

- ・ 医療スタッフの教育
 - ・2025 年の新病院の建設、そしてカンボジア人スタッフが自立して医療活動を継続していくために、教育体制の強化に努める。特に、外部研修や勉強会の定期的な開催。また、看護部内でのクリニカルラダーの策定などよりスタッフが明確にスキルを向上させていくための体制を構築した。
- ・ 看護師の採用強化
 - ・2025 年に新病院の開院が控えているが、現在の看護師数では十分ではないため、今期カンボジア人看護師の採用をより強化していく。また、現地スタッフの育成やモバイル活動を推進するために、日本人看護師の採用も強化し、11名のスタッフの採用活動をおこなった。
- ・ 小児患者数の増加
 - ・2024 年度は小児外来患者数を 5,000 人目標としたが、実績は 4,006 名。2025年も Facebook での広報に注力するだけでなく、手術受け入れも促進していく。また、手術待ち患者だけが増える状況を改善し、患者が増加しても手術待ち患者が溜まらない仕組みも合わせて構築していく。

2) 提携病院での活動

2024 年度はクロツチュマー病院、チャムカラー病院をメインに手術活動を実施した。提携病院のスタッフが自立して、ヘルニアや虫垂炎、陰嚢水腫などの手術が行えるように育成することを目標に活動を継続していく。年間で手術活動は合計 4 回以上、一人っ子での看護師の派遣などおこなった。

3) 新病院建設プロジェクト

「助かるはずの命を助かるはずだった命にしない」ためにカンボジアにて持続的に高度医療を提供し、更なる支援領域拡大の為、2025 年 10 月プノンペン近郊のタクマウにチャリティのこども新病院「ジャパンハートアジア小児医療センター」を建設するプロジェクトを遂行した。

2024 年度では、

- ・建設費用の為のファンドレイジング
- ・医療機器メーカーとの協議(継続)
- ・工事のカンボジア施工会社契約

- ・カンボジア政府との MOU(覚書)締結
- ・建築許可申請の為に各省庁との協議
- ・工事開始
- ・人材採用計画
- ・そのほか運営に係る各種調整を実施した。

2. 医療学生 奨学生支援活動

医学生・看護学生、累計 48 名の奨学金生を受け入れた。ジャパンハートカンボジアが注力している小児科、外科、小児外科、産婦人科について、専門コースへの進級を許可し、専門医を育成する。

3. 新しい広報活動の取り組み

1)カンボジア国内における認知度向上

2024 年度は Facebook のフォロワー数 72,000 人が突破した。国内での認知度向上に努めた。

2)ファンドレイジング

2024 年度は 606,635USD ドルの寄付を獲得した。現地企業連携により寄付獲得につながった。

ラオス

1. 医療活動

1)ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療・手術プロジェクト

第 2 フェーズについて、内分泌外科学会と引き続き連携し、同学会所属の医師による指導協力を得ながら、手術活動を 4 回実施した。後半の 2 回は全症例を現地医師が執刀し、第 2 フェーズ 3 年間での目標執刀件数を 2 年目で達成した。また、術前・術後診察の指導を 4 回実施したほか、学会所属医師による超音波検査技術を中心とした集中的な内科診療指導を 1 回実施し、内科診療技術の向上に努めた。

甲状腺患者の受け入れを病院が自立して行えるような体制構築の支援を行うため、通常の病院の業務体制を把握することを目的としたフィールドリサーチを実施した。

2)個人診療

2 名の患者について、引き続きそれぞれのサポートを行った。

斜顔裂の患者については、看護師による訪問ケアを 1 回行ったほか、毎月電話でのヒアリングを実施した。

末期がんの患者については、緩和ケアの一環として外出支援を行ったほか、カンボジア JHCMC の協力を得ながら、継続的な服用が必要な薬の購入をサポートした。

3)小児プロジェクト

対象疾患の患者をビエンチャンへ誘致するため、地方都市の病院やヘルスケアセンターへの訪問、SNS でのプロジェクト紹介などの広報活動を実施した。プロジェクトの対象疾患と補助対象となる費用の範囲を拡大し、より多くの患者がプロジェクトのサポート対象として病院にアクセスできる素地を整備した。

手術活動の実施に向け、機材の購入を進めた。パートナーである子ども病院の外科医師・看護師をカンボジア JHCMC に招き、研修を実施したほか、日本人の医師・看護師によるオンラインでの研修・ケーススタディを毎月開催し、ラオス人医療者の知識・情報の拡充を図った。

1 名の患者をプロジェクトの対象と認め、治療のサポートを開始した。

2. 広報・ファンドレイジング活動

ラオス国内外で関係を構築できる企業や団体の会合に参加するほか、オフィスへの企業訪問を積極的に受け入れた。

SNS 投稿の内容、タイミングを見直し、フォロワーを前年度比 25%増加させた。

Ⅲ. 事業報告/ 国内

災害支援・対策セクション

2024 年度は前年度に引き続き組織体制の強化を行うと同時に、2024 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震を受けて中長期支援活動を継続した。

1. 組織内部強化

調整員 1 名、看護師(非常勤)1 名がチームに参画した。

また、研修等の運営サポートとして災害ボランティア登録者 4 名と業務委託契約した。

2. 自然災害時緊急救援

1) 令和6年能登半島地震(2024 年 1 月 2 日～)

2024 年 1 月 1 日に発生した地震を受けて、1 月 2 日以降 4 月 20 日まで避難所等への常駐支援を行った。派遣者数は医師 8 名、看護師 51 名、ロジスティクス 20 名のべ計 79 名、平均活動日数 11 日間であった。

また本災害においては、中長期支援としてサロン活動および仮設住宅訪問支援を継続しており、派遣者数はのべ計 88 名となった(2025 年 5 月まで)。

a. 避難所常駐支援

1 月 4 日から現場活動を開始して以降、仮設住宅の開設が進んだ 4 月 20 日に撤収するまでの間に、能登町、輪島市、七尾市の 7 か所の避難所および珠洲市の 1 か所の診療所に医療チームを派遣し常駐支援を実施した。

b. 巡回診療・訪問看護

指定避難所の他に小規模の私設避難所が多く散在し孤立していた状況を鑑み、保健医療福祉調整本部が調整していた巡回診療チームに加わることで 10～15 か所の避難所巡回を行った。

c. サロン活動

仮設住宅への入居に伴う孤立防止やセルフケアの促進を目的として、2024 年 6 月以降能登町および輪島市の 12 地区で月 1 回の医療者によるサロン活動を継続している。2025 年 5 月現在に至るまでの来場者数はのべ 1,001 名、並行して実施している仮設住宅訪問数はのべ 639 名。

d. 物的支援

1 月 2 日以降、富山県および岡山県に備蓄していた災害時要支援者支援パッケージ「Heart Stock」を富山県、石川県の被災地自治体や避難所に支援した。

2) ミャンマー地震緊急救援(2025 年 3 月 28 日～)

2025 年 3 月 28 日に発生した地震を受けて、海外事業部の主導のもと、災害支援・対策セクションからもスタッフ 1 名および災害ボランティア登録者 2 名を派遣して後方支援に従事した。なお、初動緊急調査費用に関しては、寄付金の他にジャパン・プラットフォームからの助成金を活用した。

3. iER ボランティア登録制度

1) 新規登録数

各回実地 16 名定員にて開催

- ・第 13 回研修:8 月 10 日(土)~11 日(日)に東京会場で実施、参加者数 15 名
- ・第 14 回研修:2 月 8 日(土)~9 日(日)に東京会場で実施、参加者数 16 名

2) 既存登録者ステップアップ研修

医療従事者向け、ロジスティクス向けとして計3回実施

- ・医療ステップアップ研修:2024 年 4 月、2025 年 3 月開催
- ・ロジスティクスステップアップ研修:2024 年 12 月開催
- ※ロジスティクス研修は、海外研修の実施をもって代替した

3) 海外研修

2024 年度より企画を行い、2025 年 4 月 26 日~5 月 7 日までカンボジアプレイベン州にて災害支援海外研修を実施し、9 名の災害ボランティア登録者が参加した。

4. 国内外ネットワーク作りと強化

1) 自治体・企業・医療機関との協定

- ・2024 年 10 月、千葉県白子市大多和医院と災害時の医療者派遣に関する協定を締結
- ・2025 年 3 月、高知県と災害時の包括支援協定を締結

2) 学会発表

- ・2025年3月日本災害医学会での発表を実施(口演1、ポスター発表1)

5. 各地拠点

- ・佐賀:2024 年 5 月、佐賀市大和から射水市大財に事務所を移転
- ・岡山:2024 年 12 月、岡山市北区に新規拠点を開設
- ・富山:2025 年 3 月、射水市朴木から射水市二口に拠点を移転

スマイルスマイルプロジェクト

小児がんと向き合うご家族や医療関係者に活動を認知いただけるようになり、重症度の高いお子さんからの依頼が年々増加傾向にある。現在まで、医療的な理由でご依頼をお断りすることではなく、スタッフは誇りを持って自分たちにできる支援を模索しながら活動をしている。

今年度も小児がんと向き合う子どもたち、ご家族、医療者、サポーター、スタッフそれぞれが生まれてきてよかったと思える世界に貢献できるよう活動をしていきたい。

また、自然災害の頻度が増えている昨今に対応するため、付き添い中の災害を想定し部署内での災害時対応マニュアルの作成を完了し、実装・改善を繰り返しながら現実的に活用するところまで進めている。

知識と技術に裏付けされた質の高い活動を提供することを大切にしており、学会発表や研修会への参加などスタッフの自己研鑽の機会を確保することができた。

1. 具体的な活動実績

- ・活動全体を通して、450 名のご家族に支援を届けることができた。
- ・参加ボランティアは 380 名であった。
- ・お問い合わせは 132 件いただき、個別旅行 54 件を実施した。
当事者のご家族は、医療機関の勧め、友人からの紹介、SNS などが活動を知る機会となっており、お問い合わせもご家族から直接いただく場合と医療機関からのものが多かった。
個別旅行は全国各地からディズニーリゾートへ旅行するものが多かったが、USJ やハウステ

ンボスなどのレジャー施設、札幌のエスコンフィールドの見学、大井川鉄道に乗りたい、水木しげる記念館に行きたいなど全国各地への家族旅行を支援することができた。

・招待企画は 8 件を実施した。

株式会社一休さまの支援による宿泊ポイントを活用させていただき、全国をブロックに分けて宿泊体験をプレゼントする企画は8組をご招待することができた。それ以外にもキッザニア(東京・甲子園・初の福岡)、ディズニーランド、ハウステンボス、製薬企業の社屋で開催する夏のキッズセミナーなどを開催した。

2. 人材強化

・スタッフの学習支援、キャリア形成支援

スタッフ2名はそれぞれ学会に演題を提出し採択、学会当日も発表を通してたくさんの施設からの質問を通してフィードバックを得ることができた。

・新規看護師1名の採用

小児看護経験者 1 名の採用、入職は 2025 年度下半期からに決定した。

3. 災害対応

・ご家族に同行する旅行中に発生する災害に備え災害対応マニュアルを作成し実装と改善を繰り返している。

・スタッフの身を守る初期装備キットを作り、各自が実装を始めている。

IV. メディカルヒューマンリソース(医療人材採用・育成 / 地域医療支援)

メディカルチーム(旧グローバル看護師・助産師人材開発/実践コース)

1)メディカルチームの人材獲得

医師:4 名 看護師:5 名 助産師:2 名 コメディカル:1 名

メディカルチームとしての活動が始まったことで、より幅広い医療従事者へのアプローチが求められるようになった。そのため、医療系大学をはじめ、学会やイベントなど、多くの医療従事者にリーチできる手段を模索した。また、各医療現場で求められる人材の特性や業務内容を洗い出すことで、より具体的な人材獲得のための施策を立案した。

2)既存人材の強化

カンボジアの現地看護師向けに教育ラダーを作成し、運用を開始した。また、現地のニーズに応じた勉強会の開催や個別フォローを行うことで、実践的な学びを支援した。さらに、現地の課題解決を目的とするワーキンググループに派遣された日本人スタッフをサポートすることで、現地人教育と問題解決の両面を推進することができた。加えて、個々の強みや能力を各国間で共有することで、各プロジェクトに適した人材配置が可能となり、スタッフのモチベーション向上にもつながった。

3)ボランティア事業

現地のニーズに即した医療系短期ボランティアの受け入れ体制を構築し、ボランティア参加者と受け入れ側の双方にとって、負担を最小限に抑えつつ高い満足度が得られる仕組みを整えた。また、看護師・助産師・医療系学生を対象としたツアーを開催し、メディカルチームへの参加を促進するルートづくりを行った。

RIKAjob(離島・へき地への医療者派遣)

1)派遣者数の増加

各病院から取り寄せた必要看護師数に対して以下の施策を実施し、前年度より多くの派遣を実現した。

- ・HP で最もみられている体験レポートの見やすさを重視し、病院ごとに見やすい形での整理や各病院紹介からも遷移できるような体制とした。
- ・派遣者へのアンケートの実施にて、より多くの看護師の声を体験談として SNS や体験レポートとして掲載するとともに、病院へのフィードバックを適宜実施
- ・資料請求くださった方へのお礼とともに情報提供メールを実施。
- ・RIKA Job 説明会・ナースラウンジを各 3 回/年、計 6 回実施。
- ・RIKA Job 個別相談会の適宜開催。

2)病院との協働と条件整理

- ・病院側との定期的な情報共有と広報協力の依頼継続。
- ・雇用条件はじめ、柔軟な働き方の提案による、様々な年齢層の看護師への参加を促すための条件整理。

3)派遣者フォロー

- ・メディカルチーム:MHR 内での連携のもと、病院活動期間の充足を図るとともに、海外での医療活動終了後の国内の働き場としての候補となるよう情報共有を強化した。
- ・RIKA Job 派遣者:派遣 1 か月ごと終了付きのフォロー面談の実施にて、緊張や不安の軽減に努めるとともに、同病院または離島ホッピングにて派遣期間延長につなげるための派遣者とのコミュニケーションの機会を創出した。

4)災害支援スキームの整理

- ・病院にとっても負担なく支援(派遣)するための派遣内容の整理。

V. マーケティンググループ(広報 / ファンドレイジング)

広報活動

支援拡大へ向けた団体の認知拡大、社会価値向上

1)各種アワード獲得について

- 4 月:2024 SIOP Almanac of Women Leaders 選出
(ジャパンハートこども医療センター小児科部長嘉数真理子、主催:国際小児がん学会)
- 10 月: UNIATF Award 2024 受賞
(団体として、主催:国際連合)

2)紙媒体制作物の充実化

- 季節 DM の見直し
 - ・デザイン、コンテンツ共に刷新を図り、対象者においても休眠寄付者の掘り起こしに向けた対象拡大を実施。対前年比 10%増を実現した。
 - ・オフラインでの情報収集支援者に向け、秋 DM、新年のご挨拶 DM を実施。
- 遺贈寄付の新パンフレット作成

高まる遺贈寄付ニーズに対応するため、遺贈寄付のパンフレットを刷新。各種提携先に配布するなど、広報活動を強化。

3)メディアへの露出を強化

- テレビ番組への出演(2024 年度)
 - 4 月 :SmileSmileProject 取材(NCC 長崎文化放送)
 - 6 月 :iER 取材(MRO 北陸放送)
 - 3 月 :ミャンマー 看護師 河野朋子「N スタ」コメント出演(TBS)
- ※その他被災地支援として、複数番組に出演

b) その他メディアへの出演と掲載

9月:新聞「朝日新聞」スマイルスマイルプロジェクト 取材・掲載

1月:新聞「読売新聞」最高顧問吉岡秀人取材・掲載

※その他各事業部が地方新聞、複数メディアに登場

4)活動レポートの精度向上

各活動地の配信ペースを均等にし、医療者向けと支援者向けの活動レポートの内容を明確に分け、読者により満足度の高いレポート作成の体制を構築

5)2025 年度 AC ジャパン採択決定

ファンドレイジング

1. 20周年イベント等、定期的なオフラインイベントの開催

団体設立から 20 年となった 2024 年度は、20 周年を記念したイベントを開催し、多くのご支援者様よりお祝いともなご支援を約 800 万円賜った。

全体を通しては、個人支援者向けオフラインイベントとして、年間 3 本を実施。また、企業向けには毎月オンラインイベントを開催。延べ、約 400 名の方にご参加いただくことができた。

2. カンボジア新病院プロジェクト

2023 年度に続き、再注力プロジェクトとして取り組んでいたが、2023 年度に既存の寄付先には既に総当たりをしていたこともあり、新病院プロジェクトへの寄付としては対前年比半分ほどに落ち込んだ。

能登半島地震を契機に「災害支援」に注目する流れが個人・法人問わず見られ、新病院寄付が減少した要因の 1 つともなっている。

3. ふるさと納税の継続

既存寄付者へのメルマガや DM を強化。金額としては前年度同様の約 1500 万だったが、対前年比 64 件の増加となり、施策が効果を見せた。

5. 遺贈・相続

2024 年度より日本承継寄付協会の共創パートナー契約の締結、また、主に紹介依頼をメインに土業開拓を開始。※遺贈については施策の効果が早く出ることはないと考えているが、遺贈寄付額については対前年比 2 倍となる 1.7 億を突破

カスタマーリレーション

1. 特典の見直しとマンスリー会員のロイヤリティ向上に向けた取り組み

特典の稼働率の検証を実施した。限定動画など活発に活用されていない特典もあったため年度後期には毎月のメルマガなどで、限定動画特典や JapanHeart 部に関する案内をするなど周知に努めた。

2. Japan Heart 部の活動活性化

Japan Heart 部の参加者分析や目指すビジョンの再確認が実施され、今年度は寄付や思いやりの気持ちを醸成するための絵本作りとそれに関するイベントの準備を行った。イベントにはスポンサーも付き、年度明け 5 月に子どもを対象とした絵本イベントが実施された。

3. 支援者サービス実務の質の向上

支援者サービス実務の洗い出しと整理を実施し、作業マニュアルを作成することで業務効率の改善と精度向上、業務の属人化の防止に繋がった。

2024年4月1日から2025年3月31日まで

科目	前年度決算額	今年度決算額	決算に関する特記事項	予算対比	当初予算額
経常収益					
受取会費	17,236,000	15,545,000		▲ 1,955,000	17,500,000
受取寄付金	989,137,447	1,832,719,026	皆様からの継続的なご支援に加え、今年度は例外的に、新たな個人の方より約9億円の大型寄付があり、加えてダイワボウ情報システム株式会社をはじめ、複数の法人からも大型のご寄付をいただいたことで、寄付金は過去最大規模となった。	652,719,026	1,180,000,000
受取助成金等	75,808,555	6,490,000	昨年度は能登半島地震に対する助成として、コカ・コーラ株式会社から4,500万円、コカ・コーラ教育・環境財団から2,200万円の支援を受けたが、本年度は該当助成はなし。	▲ 4,810,000	11,300,000
事業収益	42,841,815	24,073,151	前年度からの減少は、海外長期研修参加費の廃止による収入の大幅減（2,084万円から37万円）によるもの。	12,063,151	12,010,000
その他収益	111,067,135	126,330,345	為替差益は9,800万円から8,600万円にやや減少したものの、定期預金の解約により受取利息は500万円から4,000万円へと大幅に増加した。	126,330,345	0
当期経常収益合計 A	1,236,090,952	2,005,157,522		784,347,522	1,220,810,000
経常費用					
【事業費】	569,094,146	773,945,708		-73,773,410	887,460,783
人件費	269,246,570	357,173,994	カンボジア、ミャンマー、ラオスは概ね予算通りに推移。業務拡張による人員増、昇給、東京事務局を含む職員待遇の見直しにより、人件費は前年度比で大幅増となった。	▲ 28,931,581	386,105,575
顧問・アドバイザー料	400,000	1,363,585	iER顧問料40万円に加え、カンボジアでの外部監査料、カンボジア病院顧問料30万円が発生。	763,585	600,000
業務委託費	23,361,595	21,378,944	本年は新規で営業代行業務費用788万円が発生。	5,970,134	15,408,810
通信運搬費	4,891,475	7,113,040	通信運搬費は、DM発送回数が前年度の1回から今年度は3回に増えたことにより、作業費・発送費等で約150万円増加した。	406,380	6,706,660
医療器具・備品費	5,158,517	4,887,420		▲ 28,648,830	33,536,250
医療支援費	59,866,311	0	今年度より、医薬品・医薬資材・検査費の3科目に分けて計上する運用に変更されたが、予算はその決定前に設定されていたため。	▲ 52,089,029	52,089,029
医薬品		34,450,907	概ね算通り	▲ 1,786,224	36,237,131
医療資材		21,287,628	概ね算通り	▲ 1,902,402	23,190,030
検査費		13,454,713	概ね算通り	▲ 2,151,559	15,606,272
学業支援費	12,943,992	15,502,677	Dream Train967万円、前年比290万円増	▲ 2,748,642	18,251,319
子ども支援費	6,396,084	7,807,868	概ね算通り、SSPなど活動活発化による費用増加	▲ 192,132	8,000,000
旅費交通費	46,431,546	52,376,186	コロナ禍前の活動状況に戻っているため	▲ 10,511,853	62,888,039
水道光熱費	9,014,683	11,067,708	水道光熱費は、Dream Trainで103万円、カンボジア病院で47万円の増加となった。	1,708,337	9,359,371
広告宣伝費	13,199,305	36,908,168	広告宣伝費が前年度を大幅に上回ったのは、ACジャパンへの基本広告製作費一式等として2,200万円の支払いがあったため。	▲ 12,776,832	49,685,000
研修費	2,416,452	2,151,967		▲ 1,076,033	3,228,000
会議費	931,825	1,396,514	コロナ禍前の活動状況に戻っているため	▲ 488,686	1,885,200
接待交際費	279,957	540,774	海外の交際費増加。日本からのツアー対応（食事提供等）により増加。	▲ 86,626	627,400
消耗品費	12,967,255	16,983,596	災害支援用ユニフォーム代228万円、災害時備蓄用米購入費100万円などの臨時費用が発生したことにより、前年度より増加した。	▲ 1,142,008	18,125,604
食材費	31,887,387	40,114,387	食事支給の対象者・回数の増加により、カンボジア病院は356万円、ミャンマー医療活動は225万円、Dream Trainは189万円の増加	7,789,035	32,325,352
新聞図書費	46,094	90,631		▲ 385,819	476,450
印刷製本費	3,678,279	4,023,010	印刷製本費は、ワッチェ病院のユニフォームの作成、ロゴ印刷費31万円が発生したことにより、前年度より約30万円増加した。	933,871	3,089,139
セミナー・イベント開催費	1,837,274	3,402,176	コロナ禍前の活動状況に戻っているため	▲ 15,638,824	19,041,000
工事・修繕費	2,078,849	2,570,549	工事修繕費は、能登震災支援用車両の修繕費31万円の発生が主因となり、前年より増加した。	▲ 957,133	3,527,682
賃借料	638,473	1,865,495	賃借料は、ミャンマー専門医用カーレンタルの49万円増、ヤンゴン事務所のカーレンタルの38万円増による。	▲ 729,519	2,595,014
地代・家賃	12,498,714	13,885,252		26,405,900	26,405,900
車両費	5,680,571	6,982,883	ミャンマーの経費が421万円から559万円に138万円増加	3,899,000	3,899,000
保険料	5,157,930	4,303,174	海外旅行傷害保険料前年度比約100万円減少	▲ 9,383,040	13,686,214
謝礼金	2,697,170	1,696,737	前年度は能登震災支援看護謝礼173万円含む	1,504,737	192,000
諸会費	573,142	632,929		63,596	569,333
リース料	0	460,680	リース料は、能登震災支援のための自動車リース料の発生による増加。	460,680	0

支払手数料	4,323,008	4,834,896	前年度より経費が増加したのは、従業員の適性検査用ソフトの1年分使用料40万円が主因。	2,943,920	1,890,976
雑費	12,218	63,061		▲ 174,914	237,975
寄付金支出	0	0		0	0
租税公課	978,706	1,144,233		344,233	800,000
期首書籍等	810,666	625,149		625,149	0
当期書籍等仕入高	361,630	1,386,796		1,386,796	0
他勘定振替	▲ 303,885	▲ 1,290,332	贈呈した書籍等の原価を広告宣伝費に振替	▲ 1,290,332	0
期末書籍等	▲ 625,149	▲ 614,985		▲ 614,985	0
書籍等販売原価	243,262	105,646		105,646	0
減価償却費	29,257,502	81,923,298		44,728,240	37,195,058
【管理費】	43,715,489	40,365,110		6,868,052	33,497,058
人件費	16,346,862	9,282,364	予算で示された通り、管理費に計上されていた人件費の一部が、事業費の人件費として計上された。	446,306	8,836,058
業務委託費	3,908,144	6,214,676	今年度労務担当派遣スタッフの費用発生143万円	2,516,676	3,698,000
通信運搬費	945,499	1,084,460		▲ 75,540	1,160,000
水道光熱費	541,777	521,541		▲ 90,459	612,000
旅費交通費	517,872	243,352		123,352	120,000
広告宣伝費	1,737,359	0	前年は、バラドックス社による求人広告費として143万円を計上。	0	0
研修費	0			▲ 10,000	10,000
会議費	21,957	2,573		▲ 12,427	15,000
接待交際費	0	0		0	0
消耗品費	880,709	380,969	前年はパソコン5台購入（40万円）今年は一休様からのPCご寄付によりPC購入代は無し	▲ 449,031	830,000
新聞図書費	0	0		0	0
印刷製本費	495,044	570,062	複合機パフォーマンスチャージ	90,062	480,000
工事・修繕費	0	153,868	旧賃借物件の清掃費	153,868	0
賃借料	0	0		0	0
地代・家賃	7,177,386	7,942,270	新東京宿泊所及び新佐賀事務所新規借入、旧東京宿泊所及び旧佐賀事務所賃借終了	842,270	7,100,000
保険料	42,000	274,830	サイバー被害補填保険料26万円	252,830	22,000
租税公課	12,705	9,850		▲ 10,150	20,000
諸会費	215,800	391,800	JANIC会員年会費28万円、JPF会費10万円を計上。	55,800	336,000
リース料	363,000	396,000	日立キャピタル複合機再リース料金（3,300円×12ヶ月分）。前年は11ヶ月	0	396,000
支払手数料	10,284,045	12,690,242	ROBOT PAYMENTカード決済手数料890万円、その他は海外送金・振込手数料等	2,990,242	9,700,000
雑費	78,370	193,320		101,320	92,000
雑損失	0	1,567		1,567	0
減価償却費	146,960	11,366	東京事務所バーテーションの減価償却費	▲ 58,634	70,000
為替差損	0	0		0	0
租税（消費税）	0	0		0	0
当期経常費用合計 B	612,809,635	814,310,818		▲ 106,647,023	920,957,841
当期経常増減額 A－B	623,281,317	1,190,846,704		890,994,545	299,852,159
経常外収益					
【経常外収益】					
固定資産売却益					
前期損益修正益					
経常外費用					
【経常外費用】					
前期損益修正損					
過年度受取参加費返金	900,000	150,000			
過年度受取助成金返金					
税引前当期正味財産増減額	622,381,317	1,190,696,704			
法人税・住民税・事業税	151,000	2,353,015			
当期正味財産増減額	622,230,317	1,188,343,689			
前期繰越正味財産額	1,542,073,430	2,164,303,747			
次期繰越正味財産額	2,164,303,747	3,352,647,436			

貸借対照表

2025 年 3 月 31 日 現在

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
	円		円
【流動資産】	【 1,559,446,436 】	【流動負債】	【 31,039,846 】
現金及び預金	1,533,430,315	未払金	30,291,534
書籍	613,345	預り金	597,312
商品	1,640	未払法人税等	151,000
前払費用	4,236,471		
未収金	10,471,084		
仮払金	10,693,581		
【固定資産】	【 1,824,240,846 】		
(有形固定資産)	(1,775,550,576)		
建物	210,268,808	負債の部合計	31,039,846
建物付属設備	30,253,517	正味財産の部	
構築物	8,506,734		
車両運搬具	8,987,723		
工具器具備品	757,038,320		
土地	406,029		
建設仮勘定	760,089,445	前期繰越正味財産	2,164,303,747
(無形固定資産)	(16,160,971)	当期正味財産増減額	1,188,343,689
ミャンマー土地賃借権	16,160,971		
(投資その他の資産)	(32,529,299)		
投資有価証券	30,000,000		
敷金	2,529,299	正味財産の部合計	3,352,647,436
資産の部合計	3,383,687,282	負債及び正味財産の部合計	3,383,687,282

2025年3月期 計算書類の注記

特定非営利活動法人 ジャパンハート

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 資産の評価基準及び評価方法

① 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法を採用しています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

定率法を採用しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

2. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
海外土地	406,029	0	0	406,029	0	406,029
海外建物	253,619,748	0	0	253,619,748	43,350,940	210,268,808
国内建物附属設備	440,000	0	0	440,000	439,999	1
海外建物附属設備	47,907,936	0	0	47,907,936	17,654,420	30,253,516
海外構築物	14,622,066	0	0	14,622,066	6,115,332	8,506,734
国内車輻運搬具	4,977,111	5,845,400	0	10,822,511	2,863,370	7,959,141
海外車輻運搬具	27,138,904	0	0	27,138,904	26,110,322	1,028,582
国内什器備品	508,735	264,253,000	0	264,761,735	18,013,014	246,748,721
海外什器備品	144,390,144	532,482,854	0	676,872,998	166,583,399	510,289,599
一括償却資産	0	0	0	0	0	0
建設仮勘定	32,443,641	731,727,652	4,081,848	760,089,445	0	760,089,445
無形固定資産						
マンション土地賃借権	22,610,708	0	0	22,610,708	6,449,737	16,160,971
ソフトウェア	0	0	0	0	0	0
投資その他の資産						
敷金	2,659,299	190,000	320,000	2,529,299	0	2,529,299
保証金	0	0	0	0	0	0
合計	551,724,321	1,534,498,906	4,401,848	2,081,821,379	287,580,533	1,794,240,846

令和6年度 財産目録

令和7年3月31日現在

特定非営利活動法人 ジャパンハート
(単位：円)

科 目	金 額	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	1,533,430,315	
手元現金	22,393,437	
三菱UFJ銀行普通預金	152,511,494	
三菱UFJ銀行普通預金	2,674,486	
三井住友銀行普通預金	63,617,274	
朝日信用金庫普通預金	10,744	
佐賀銀行普通預金	188,313	
みずほ銀行普通預金	3,997,140	
GMOあおぞらネット銀行普通預金	110,740,485	
大和ネクスト銀行 円普通預金	699	
大和ネクスト銀行 外貨普通預金	1,097	
ゆうちょ銀行普通預金	3,122,796	
ゆうちょ銀行当座預金	80,345,031	
ゆうちょ銀行当座預金	7,218,580	
ゆうちょ銀行当座預金	180,968,036	
ゆうちょ銀行当座預金	6,591,478	
朝日信用金庫定期預金	10,000,000	
Foreign Trade Bank 1年 定期預金 No.1	0	
Foreign Trade Bank 1年 定期預金 No.2	0	
Foreign Trade Bank 6ヶ月 定期預金 No.3	0	
ABA BANK 1年	44,856,000	
Foreign Trade Bank of Cambodia ドル預金	33,468,227	
Canadia Bank/of Cambodia	1,495	
ABA Bank Payroll Cambodia	2,161,803	
ABA Bank Cambodia	8,632,353	
ACLEDA Bank Cambodia	6,811,714	
三菱UFJ銀行 ユーロ口座	9	
三井住友銀行 ドル預金	279,107,177	
大和ネクスト銀行 外貨定期預金	0	
BCEL \$ ラオス	2,739,284	
BCEL KIP ラオス	1,593,886	
BCEL KIP 寄付用ラオス	1,309	
Myanma Foreign Trade Bank USD ミャンマー	0	
Myanmar Economic/Bank	2,592,031	
KANBAWZA BANK USD ミャンマー	13,379	
Kasikorn Bank(THB) タイ	0	
BCEL KIP 寄付用	0	
WING Cambodia	67,322	
ASIAWEILUY Cambodia	136,650	
ASIAWEILUY QR	3,713,109	
KANBAWZA BANK MMK	23,375	
KANBAWZA BANK MMK SC	14,639,171	
Foreign Trade Bank Cambodia	101,728	
セントラル短資FX㈱ 円預金	72,197,248	
セントラル短資FX㈱ ドル預金	179,424,000	
Myanma Foreign Trade Bank JH	15,017	
ミャンマー 国営銀行	0	
SATHAPANA	159,373,632	
SATHAPANA F 1	0	
SATHAPANA F 2	0	
KBZ_MMK_DT	729	
CB_MMK_SC	22,883	
CB_MMK_NC	7,394	
AYA_MMK_S	408	
C_ABA_KHR	230,223	
C_ABA_UDN	551	
C_PPC_S_USD	278,854	
C_PPC_S_KHR	1,071,302	
C_CM_S_USD	583,392	
C_CM_S_KHR	423,570	
C_PPC_F_1	74,760,000	
棚卸資産		
書籍	613,345	
商品	1,640	
前払費用		
海外家賃等	4,236,471	
立替金		
社会保険料等立替金	0	
仮払金		
海外事業仮払金等	10,693,581	
未収金		
3月 決済分寄附金	9,901,500	
イベント企画料等	569,584	
流 動 資 産 合 計	1,559,446,436	

2. 固定資産			
(1) 有形固定資産			
建物			
ミャンマースタッフ宿舎	3,443,879		
ミャンマースタッフ宿舎 追加工事	271,792		
カンボジア病院建設	32,410,131		
カンボジア小児科医療センター	61,930,310		
カンボジア病院 外来待合室	1,168,594		
カンボジア病院 スタッフハウス	30,500,527		
カンボジア病院 スタッフハウス 階段/手摺工事	422,542		
カンボジア病院 AAMC病院給食センター	27,281,697		
カンボジア人 スタッフ新宿舎	8,593,829		
カンボジア人 スタッフ新宿舎 1階追加工事	2,156,576		
カンボジア病院 研修棟	40,794,215		
ウドムサイ病院 甲状腺疾患診療用建物	1,294,716		
建物付属設備			
カンボジア病院 変圧器等	1,521,503		
カンボジア病院 陶器手洗器設置工事 分水工事	370,633		
カンボジア病院 患者用導線屋根	101,665		
カンボジア病院 変圧器(増設)	2,201,441		
カンボジア病院 AAMC病院給食センター 厨房機器一式	13,877,944		
カンボジア病院 電気ケーブル Phase1.2	908,189		
カンボジア病院 電力制御システム Phase1.2ケーブル	199,014		
カンボジア病院 発電機室	586,414		
カンボジア病院 女子寮屋上 断熱材設置工事	160,464		
カンボジア病院 宿舎No.2 排気ダクト設置工事	39,063		
カンボジア病院 病室改造工事	545,109		
カンボジア病院 洗濯場改造工事	452,365		
カンボジア病院 トイレ改造工事 Phase2	2,308,409		
DT図書館 フローリング内装改造費	236,878		
発電機 配電施設 ミャンマー専門医	293,739		
カンボジア病院 AVR発電機 3P 400KVA	2,187,183		
カンボジア病院 レントゲン室 内装工事	4,263,503		
東京事務局 パーティション	1		
構築物			
カンボジア病院 舗装工事等	407,012		
カンボジア病院 浄化槽埋設工事・掘削工事	1,068,063		
カンボジア病院 外来待合室前 舗装工事	177,089		
カンボジア病院 貯水タンク4台設置工事	359,388		
カンボジア小児病棟前 コンクリート道路工事	177,888		
DREAM Train 太陽光発電システム装置	644,806		
DREAM Train フェンス (図書館裏から事務所裏)	226,755		
DREAM Train フェンス (事務所裏から女子棟裏)	86,426		
DREAM Train フェンス (フットボール場)	226,868		
カンボジア病院 スタッフハウス 給水タンク	231,067		
カンボジア病院 発電機 Phase1.2 停電時使用	2,734,812		
カンボジア病院 駐車場工事	131,029		
DREAM Train 貯水タンク 図書館設置	118,205		
カンボジア病院 貯水タンク5,000L	69,493		
DREAM Train フェンス (隣接した別の養育施設との間)	204,274		
カンボジア病院 排水管の設置(病院からの排水)	184,120		
カンボジア病院 排水管の設置(病院Phase1前)	197,586		
カンボジア病院 phase1 舗装道路	727,125		
カンボジア病院 浄水器 バイブ追加設置工事 behind phase2	104,624		
カンボジア病院 浄水器 behind phase2	430,104		
車輛運搬具			
車両 13台	8,987,723		
工具器具備品			
医療器具等	757,038,320		
土地			
ミャンマー	406,029		
建設仮勘定			
カンボジア病院	759,639,926		
ドリームトレイン新棟	449,519		
有形固定資産計	1,775,550,576		
(2) 無形固定資産			
借地権			
ミャンマー土地賃借権	16,160,971		
無形固定資産計			
(3) 投資その他の資産			
投資有価証券			
敷金	30,000,000		
東京事務所	354,200		
カンボジア事務所	748,902		
カンボジア病院 宿舎	676,080		
カンボジア病院 宿舎	267,096		
ラオス事務所	88,280		
ミャンマー診療所	106,741		
富山県射水市 宿舎	98,000		
台東区駒形 宿舎	190,000		
投資その他の資産計	32,529,299		
固 定 資 産 合 計		1,824,240,846	
資 産 合 計			3,383,687,282

Ⅱ. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金			
給与・医療支援活動に係る費用等	30,291,534		
前受金			
長期研修参加費	0		
預り金			
源泉所得税等	597,312		
未払法人税等			
2024年度法人税住民税事業税等	151,000		
流 動 負 債 合 計		31,039,846	
2. 固定負債			
	0		
固定負債合計		0	
負 債 合 計			31,039,846
正 味 財 産			3,352,647,436

監事監査報告書

私は、特定非営利活動法人 ジャパンハートの 2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの第 17 期事業年度の監査を実施しました。

事業報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録はいずれも適法かつ正確であることを認めます。

2025 年 6 月 2 日

特定非営利活動法人 ジャパンハート

監事 大橋秀夫 

I. 事業計画 / 海外(オペレーショングループ)

海外事業セクション

A. 東京オフィス

1. 事業推進

- ・海外事業全体の事業戦略深化と拠点ごとの再定義
整理した中長期計画をもとに、拠点別の事業ポートフォリオの明確化を進める。各国の役割分担と重点事業の選択と集中を行い、リソースの最適配置を図る。
- ・カンボジア:新病院の開院・運営開始および周辺機能の整備
2025 年 10 月の開院をもって、「ジャパンハート アジア小児医療センター」の本格稼働を開始。
医療提供体制、経営基盤、人材マネジメントの運用を確立し、開院後の定着期を支える。
加えて、国際連携の受け入れ体制構築や、現地医療機関との協働体制整備にも着手。
- ・ミャンマー:安全を確保しながらの継続医療の強化
引き続き、国内外関係者との連携を通じて、事業継続と深化を進める。
ミャンマー組織体制の変更を実施。
- ・ラオス:小児医療プロジェクトほか、運営モデルの構築
引き続き、パートナー団体・自治体との協力体制の構築と、モニタリング体制の整備を行い、持続的な事業展開に向けたモデル構築を進める。

2. 海外での資金調達・認知度向上

- ・海外寄付基盤の多様化と戦略的運用
既存の従業員寄付プラットフォームに加え、各国在外邦人ネットワークや国際財団との連携を模索。
それぞれの地域特性に合わせた資金調達手法を検討し、試験的なキャンペーンや寄付メニューのローカライズも推進する。
- ・国際機関・財団との連携強化と表彰・助成申請の拡大
UNIATF Award 受賞を活かし、他の国際賞・助成金への応募も積極的に行い、国際的評価の可視化と資金調達の機会創出を狙う。
ASEAN・大使館などとの定期的な情報共有や関係構築も、戦略的に継続する。
- ・カンボジア現地におけるファンドレイジング体制の整備
新病院開院に合わせ、カンボジア国内の企業・個人からの支援拡大を見据えた専任体制を整備。
広報、寄付受付、イベント実施等の基盤を現地で構築し、2026 年度以降の現地自走化に向けた体制を固める。

B. ミャンマーオフィス

1. 医療活動

1) ワッチェ慈善病院を拠点とした医療活動

- ・地震で被害を受けた病院施設の補修を早急に進め、通常の医療活動が再開を目指す。
- ・ワチエ慈善病院での日本人医療者参加による手術活動を含む医療活動を継続すると共に、ミャンマー人医療者のみで実施できる内容を増やしていく。
- ・ミャンマー人医療スタッフの医療技術および知識の向上を目指し、連携病院等でのトレーニング体制を整備する。
- ・ダゴンセイッカン慈善病院内の手術室の施設整備を進めて手術可能な疾患の範囲を広げ、受診患者数の増加を目指す。

2)その他の医療活動

- ・小児外科・小児心臓・口唇口蓋裂の専門医療事業を継続する。
- ・医療崩壊や災害によって医療を受けられなくなっている子どもたちを救うための、小児医療の活動拠点を広げる。
- ・僻地や被災地など医療が届きにくい地域への、遠隔医療支援プロジェクトをスタートさせる。

2. ミャンマー医療人育成事業

引き続き新倉会の協力により、奨学生 7 名(医学生 4 名・看護学生3名)の支援を行う。

3. 社会福祉関係

1)養育施設 Dream Train(ドリームトレイン)

- ・児童養育に適さなくなった現在の建物を改善するため、新棟建設プロジェクトを引き続き実施する。昨年度から進めている ODA などの公的資金の申請準備に加え、多様な方法による資金調達に取り組むことで、Dream Train の存在を多くの方に知ってもらい、支援者を増やしていくことを目指す。
- ・必要なスタッフ数を常に確保するため、ミャンマー全土を対象に広域的な採用活動を実施する。これにより、施設運営の安定を図るとともに、より柔軟に養育・教育的な取り組みを展開できる体制を整える。

2)ミャンマー視覚障がい者自立支援活動

- ・1 年間の医療マッサージトレーニングプログラムを継続する。

3)サイクロン孤児支援活動

- ・2 名の子どもの状況に合わせた、学費および医療費の支援を実施する。

C. カンボジアオフィス

1. 医療活動

1)ジャパンハートこども医療センター

2025 年の新病院オープンを見据え、今年はカンボジア現地の医療スタッフの育成、看護師の採用強化、患者数の増加を推進していく。

医療スタッフの教育

- ・2025 年の新病院開院に向け教育体制の整備、医療安全の向上を目指す。特に、外部と連携し、研修や勉強会の定期的な開催をおこなう。

看護師部門

- ・2025 年に新病院の開院が控えているが、現在の看護師数では十分ではないため、今期カンボジア人看護師の採用をより強化していく。また、現地スタッフの育成やモバイル活動を推進するため

に、日本人看護師の採用も強化していく。

小児患者数の増加

- 2025年も引き続き、小児外来患者数を 5,000 人目標とする。Facebook での広報に注力するだけでなく、手術受け入れも促進していく。また、手術待ち患者だけが増える状況を改善し、患者が増加しても手術待ち患者が溜まらない仕組みも合わせて構築していく。

2)提携病院での活動

2024 年度はクロッチュマー病院、チャムカルー病院をメインに手術活動を実施した。今年度も提携病院のスタッフが自立して、ヘルニアや虫垂炎、陰嚢水腫などの手術が行えるように育成することを目標に活動を継続していく。

JH 派遣回数:年 6 回

オペ活動とスタッフ派遣回数の合計 治療目標件数:40 件

オペモバイルの活動体制の再構築。手術の技術移転をはじめとする病院支援プロジェクトの体制構築。

3)新病院建設プロジェクト

「助かるはずの命を助かるはずだった命にしない」ためにカンボジアにて持続的に高度医療を提供し、更なる支援領域拡大の為、2025 年 10 月プノンペン近郊のタクマウにチャリティのこども新病院「ジャパンハートアジア小児医療センター」を建設するプロジェクトを進行中。

2025 年度では

- 病院との具体契約、建設進行、資金・人材・機器確保、システム整備他
- カンボジア新病院の開院後 5 か月内(2025 年度内)に診療および事務の業務フローを最適化
- 開院 1 年以内(2026 年 11 月まで)に病床稼働率 70%以上(オープン部分)状況を目指す。開院および達成のために必用な全ての準備を実施する。

2. 医療学生 奨学生支援活動

進学した奨学金生に対しては、適宜フォローアップをしていく。医学生・医師に関しては、ジャパンハートカンボジアが注力している小児科、外科、小児外科、産婦人科について、専門コースへの進級を許可し、専門医を育成する。

3. 新しい広報活動の取り組み

1)カンボジア国内における認知度向上

- 昨年に引き続き 2025年度は Facebook のフォロワー数 8 万 5,000 人を目指す。そのためにカンボジア人広報の採用を行い、現地での広報業務の推進、国内メディアとの関係構築(定期的にリリースを出せる先)に取り組み、国内での認知度向上に努める。

2)ファンドレイジング

2030 年度中に、カンボジア事業費全体をカンボジア国内での寄付金、事業収益でカバーできる体制を目指す。

- 既存寄付企業への関係構築体制を確立し、リピートでの寄付を目指していく。年に最低一回は大口寄付企業へ活動報告のために訪問し、寄付獲得につなげていく。
- リレーションを構築できる会合への訪問やつながりのある企業からの紹介などを通じて、新規企業の開拓に努める。

ラオスオフィス

1. 医療活動

1)ウドムサイ県病院での甲状腺疾患診療・手術プロジェクト

第 2 フェーズについて、内分泌外科学会と引き続き連携し、同学会所属の医師による指導協力を得ながら、手術活動を 4 回/年、術前・術後診察の指導を 4 回/年実施する。手術は現地医師の執刀を原則とし、術中・術後の出血管理を始めとする、より高度な安全管理の指導に重点を置く。内科診療における課題を明確にし、学会所属医師による集中的な内科診療指導を 1 回/年実施する。

プロジェクト終了後のウドムサイ県病院への業務移行を見据え、現状での課題把握と対応策の立案、業務移行計画の作成・実行を確実に実施する。

ウドムサイ県病院のニーズを把握して第 2 フェーズ終了後の構想を立てる。第 3 フェーズを継続実施する場合は、ウドムサイ県病院と協議のうえ計画書を作成する。

2)個人診療

2 名の患者について、引き続きそれぞれのサポートを行う。
斜顔裂の患者については、毎月電話でのヒアリングを実施し、緊急時には訪問できる体制を整える。
末期がんの患者については、引き続き診察と薬剤購入、必要に応じて入院時のサポートを行う。

3)小児プロジェクト

九州大学病院と連携し、医師派遣による指導協力を得ながら、手術活動を 2 回/年実施する。プロジェクトの安定した運営のため、継続的に課題・リスクの把握と対応策の立案に努め、プロジェクト実施計画の作成・実行を確実に実施する。
病院訪問や SNS 発信などの広報活動を通じて、患者の病院へのアクセスを強化する。

4)新規プロジェクト

ウドムサイ県病院における新規の小児プロジェクトを想定し、現地のニーズ調査と計画立案を行う。

2. 広報・ファンドレイジング活動

助成金を含め、4 百万円の資金を確保する。
ラオス国内の広報体制を整備し、目的・ターゲットを明確化する。SNS 投稿のスケジュールを安定化し、Facebook のフォロワー 1,500 人を達成する。

II. 事業計画/ 国内(オペレーショングループ)

災害支援・対策セクション

2025 年度は、7 月に大規模災害が発生することを想定の上、支援活動だけでなく団体の運営継続を念頭に体制強化を実施していく。また、2024 年に実装したハード/ソフト面のインフラを前提に、訓練を行うことで実災害時の迅速性を高めることを目指す。

1. 組織内部強化

最低1名のロジスティクス要員の採用と、業務委託契約などを活用した研修など現場活動以外の運営安定化

2. 自然災害時緊急救援

1) 人的支援

a. 令和6年能登半島地震

サロン活動の継続に加えてリハビリ訪問、中高生向け BLS 研修を展開予定

- b. 団体内支援体制の強化
急性期、亜急性期それぞれにより質の高い支援を実施するため、派遣者のゾーニングやバックオフィスの体制強化(マニュアル化)などを進める
 - c. 外部主催訓練への参加
2025 年 6 月高知県開催訓練など、外部自治体や企業の訓練へ積極的に参加
- 2) 物的支援
各拠点(5 か所)への備蓄物資と支援物資の実装を進める。また特に、能登半島地震支援にて在庫数の減少している岡山の支援物資について再実装を行う。
- 3. iER ボランティア登録制度
 - 1) 新規登録数
各回実地 20 名にて開催予定
・第 15 回研修:8 月 9 日(土)~10 日(日)に東京会場で開催予定
・第 16 回研修:2025 年 1-2 月開催予定
 - 2) 既存登録者ステップアップ研修
医療従事者向け、ロジスティクス向けとして各年1~2 回(計 4 回)実施予定
・医療ステップアップ研修:2025 年8月、2026 年 3 月頃開催予定
・ロジスティクスステップアップ研修:2025 年 8 月、2026 年 2 月開催予定
 - 3) 海外研修
毎年 GW に 2 クールの募集を行う。2026 年度実施回は 2025 年 10 月頃募集開始予定
- 4. 国内外ネットワーク作りと強化
 - 1) 平時の体制構築として、有事の際の協働先の拡大を予定。
 - a. 自治体: 各既存協定自治体と共に、三重県との調整を進める
 - b. 企業: 有事の協働・支援企業との連携を強化する
 - 2) 学会発表
 - a. 2025 年 9 月災害看護学会への参加とブース出展を予定
 - b. 2026 年3月日本災害医学会での発表とブース出展を予定
- 5. 各地拠点
富山、東京、大阪、岡山、佐賀の各拠点で備蓄と出動用品実装などの強化を実施予定

SmileSmilePROJECT

小児がんと向き合うご家族や医療関係者への認知向上、信頼関係の構築により、個別旅行依頼が年々増加傾向にある。ケアの質を落とさず、増加する旅行依頼に応えるため、子どもを中心に置き、専門性に基づいたケアが提供できる体制の再構築をする。スタッフの自己研鑽の機会の確保、知識と技術に裏付けされた質の高いケアを提供することを目指したい。

- 1. 子どもと家族へのケアリング実践
 - (1) 問い合わせ数 150 件:問い合わせ件数前年比 50%増を目指す。
 - (2) 個別企画実施件数 68 件:前年比 30%増を目指す。
 - (3) 子どもと家族の旅行後満足度調査を実施し、ケアの質の評価、改善をする。
- 2. 支援者サービスの質の向上、小児がん啓発
 - (1) SSP サポーター制度の内容見直しを行い、定着を図る。
 - (2) ヤフー寄付サイトの充実、レモネードスタンドの実施にて寄付につなげる。
 - (3) 事業の支援企業の獲得のための講演、関わりを積極的に持ち、団体全体への活動にもつなげる。

3. 人材強化し、再現性継続性のある活動基盤の構築をはかる

- (1) 研修会や学会への参加、学習支援を行い、ケアの評価機会を作ることで人材の強化を図り、看護実践能力を向上させる。
- (2) 新規スタッフ教育(新人教育、中途成人教育)プログラムにより定着する仕組みを作る。
- (3) 看護師 1 名の採用

Ⅲ. マーケティンググループ

広報活動

テーマ:一般認知度、社会的価値向上

- 各種アワードの獲得
- メディア露出の強化

ファンドレイジング

テーマ:支援拡大に向けた取り組み

【個人向け施策】

- 同梱施策の新規実施:既存支援者・関心層への認知導線強化
- 遺贈寄付の土業連携推進:信託・税理士・弁護士等との連携を強化、HP 編集
- ふるさと納税(ふるのう)返礼品の拡充:魅力訴求とリピート支援者の増加を図る
- マンスリー支援訴求:
 - アンケート分析に基づく改善施策
 - 講演会を通じた直接訴求導線の構築

【法人向け施策】

- 営業アシスタント体制の確立:セールス担当の営業特化を支える業務分担の実現
- 既存支援企業の寄付単価向上施策:
 - 継続支援へのロイヤリティ強化施策
 - 新病院プロジェクト等を活用した大型寄付訴求の強化
 - 寄付プランの多様化・商品設計支援
- こころの花束(冠花)プロジェクト強化:
 - 対象イベント拡充・Web 掲載のブラッシュアップ
 - 企業からの祝意表明の機会の拡大
- 法人向け講演機会の創出:経営層・CSR 担当者への直接アプローチの場を設計

カスタマーリレーション

テーマ:支援者との関係を深め、持続的な支援と関係性を強化する

1) 継続寄付者の継続率向上

- ・継続寄付者の退会理由や継続理由について、継続的なデータ収集・分析フローを構築・実行する。
 - 退会フォームの設計・運用を開始し、継続的なデータ収集・分析する体制をつくる
- ・退会理由・継続理由の分析結果に基づき、退会率改善施策を策定・実行する。
- ・継続寄付者の年間退会率を 12.6%未満に改善する(現状では十分な退会分析ができていないため、2024 年度の退会率を基に設定)。
 - 継続寄付者数と退会者数について、KPI 管理ツールを作成し定期的なモニタリングを行う

2) 継続寄付者のロイヤリティの向上

- ・支援者向けメルマガの定期配信・限定動画の作成・配信を行う。
- ・他支援者とのつながりを感じてもらうための交流イベントを実施する。
- ・支援者向けコンテンツについて支援者より定期的なフィードバックを得るフローを構築する。
 - 支援者向けメルマガ内のアンケートフォーム設置等で支援者からの意見を定期的に収集する

IV. アドミニストレーショングループ(管理・組織・人材・経理)

ヒューマンリソース(人事・採用・労務)

1. 採用活動

- ・採用計画に基づき、優先順位を明確にした採用活動を展開する。
- ・採用活動におけるボトルネックに対しての施策を実行。
 - 採用フローの見直しや、新たな施策の PDCA を回す
 - 採用の勝ちパターンを明確にして、重点や工数の割り方を絞る
- ・採用に関する新規イベントの実施など、採用広報にも力を入れる
- ・新卒採用活動の継続と、25 年度入職者のフォローアップ。さらには翌年度以降に向けた入職後研修制度のブラッシュアップを行う。

2. 人事・組織

- ・次世代リーダー育成に関するプログラムを企画し、実施する。
- ・ロイヤリティ向上に向けた施策を展開
 - 団体内部のナレッジ共有
 - ウェルビーイングサーバイシステムを利用した、職員の心身ケア

管理(組織・総務)

労務・総務管理

- ・AI を活用した、団体のチャットボットの導入 ⇒ 内部での問い合わせの簡略化
- ・ガバナンス強化
 - セキュリティ対策の強化
 - 海外事業地における内部監査の実施
 - 組織の主要リスクをリスト化し、対応基準・モニタリング方法を設定し、実際の運用を開始する(リスク管理フレームワークの策定と実行)
- ・海外拠点の規則・規定を整理し、検索可能なデータベースを構築・運用する(規則・規定の一元管理)

経理・財務

1. 経理・財務

- ・前期より引き続き、短期資金として、アジア小児医療センター建設にかかる外貨の準備。
- ・口座資金分散、残高コントロールを適宜行い、適切な資金流動性を維持する。
- ・中長期資金として、資金計画を見直し、関連資料を作成・提示する。
- ・アジア小児医療センターにおいて、資産管理の透明性を維持する。
- ・経理業務の DX 化を進め、業務生産性を向上させる。

メディカルヒューマンリソース(医療人材採用・育成、地域医療支援)

1. メディカルチーム

1)メディカルチームの人材獲得

ジャパンハートの海外の活動地におけるニーズに応じて、医師、看護師、助産師、コメディカルの人材獲得を目指す。現地医療の質の向上や新病院の開院に伴い、日本人医療者に求められる役割や必要人数は変化しており、それに応じた対応が求められる。現地で発生する課題を自分ごととして捉え、主体的に解決へ動ける人材を確保していく。あわせて、各国の医療従事者との情報連携を密にし、協働体制を強化する。Web サイトや SNS、学会、イベント、説明会などを通じた広報活動も継続的に強化していく。

2)既存人材の強化と活用

メディカルチームに対する研修内容および個別フォロー体制を強化し、問題解決能力や異文化理解に優れた柔軟な人材の育成を図る。その上で、各人の強みや能力を可視化し、各国と共有することで、プロジェクトに応じた人材の適切な配置と活用を推進する。あわせて、カンボジアにおける現地看護師向け教育ラダーの運用を促進し、高度化する医療現場において必要とされる基本的な知識・技術の習得スピードを高める体制を整備する。

2. RIKA Job

1)有料広告による JH 認知の拡大

- ・広告にて RIKAjob ならびに JH の認知拡大にて今後の看護師プールに備える
- ・国内の離島・へき地医療と言えば「RIKAjob で」というブランド化

2)派遣者数の増加

看護師の希望に沿った病院への派遣と提携病院への必要数充足を目指す。

そのための募集強化として、以下のような施策を実施。

- ・HP 上での各病院の魅力や差別化の可視化を図るマイナーチェンジの実施。
これまでの「社会貢献」を前面に押し出す というものではなく、「生活の安定」など、給与や待遇面などのポイントも打ち出すことで、より安心してアクションができるよう訴求していく。
- ・資料 DL の写真やデータ更新、そして全面的に中身を整え、知りたい内容をまとめたものへ修正する。
- ・RIKA Job 説明会・ナースラウンジを年 6-8 回実施。
- ・RIKA Job 個別相談会の適宜開催。

3)病院との協働と条件整理

- ・病院側との定期的な情報共有と広報協力の依頼継続。
- ・RIKAjob 強化病院との MTG の開催と今後の施策を病院とともに策定し実施していく。
- ・雇用条件はじめ、柔軟な働き方の提案による、様々な年齢層の看護師への参加を促すための条件整理。
- ・病院訪問を実施し信頼関係の構築と継続。

4)派遣者フォロー

- ・メディカルチーム:MHR 内での連携のもと、病院活動期間の充足を図るとともに、海外での医療活動終了後の国内の働き場としての候補となるよう共有を強化する。
- ・RIKA Job 派遣者:派遣 1 か月後と終了前のフォロー面談の実施にて、緊張や不安の軽減に努めるとともに、同病院または離島ホッピングにて派遣期間延長につなげるためのコミュニケーションの機会を創出していく。

5)災害支援スキームの整理

- ・協働できる病院数の拡大(奄美大島への調整を実施。)
- ・派遣人数や規模の少ない病院での柔軟な対応方法の検討実施(大間・隠岐など)

第4号議案 2025年度 活動予算書（案）

2025年4月1日から2026年3月31日まで

（単位：円）

科 目	予算額(税込)	前年度決算額(税込)
経常収益		
受取会費	16,660,000	15,545,000
受取寄附金	1,240,000,000	1,832,719,026
受取助成金等	5,350,000	6,490,000
事業収益	12,236,000	24,073,151
その他収益	0	126,330,345
当期経常収益合計 A	1,274,246,000	2,005,157,522
経常費用		
【事業費】	1,296,284,783	773,945,708
人件費	441,161,898	357,173,994
顧問・アドバイザー料	1,210,000	1,363,585
業務委託費	39,102,940	21,378,944
旅費交通費	57,216,134	52,376,186
広告宣伝費	30,727,000	36,908,168
医療器具・備品費	13,535,033	4,887,420
医療支援費	0	0
医療資材費	26,712,681	21,287,628
医薬品	32,606,350	34,450,907
検査費	16,689,377	13,454,713
患者物品購入費	1,993,091	0
消耗品費	46,534,226	16,983,596
寄付受贈	0	0
学業支援費	13,737,688	15,502,677
子ども支援費	10,000,000	7,807,868
食材費	27,583,150	40,114,387
研修費	814,000	2,151,967
人材派遣費	2,580,000	0
医療者育成費	0	0
寄付金支出	0	0
水道光熱費	27,087,375	11,067,708
地代・家賃	13,160,200	13,885,252
海外スタッフ開催費	1,800,000	0
セミナー・イベント開催費	8,625,667	3,402,176
通信運搬費	6,356,220	7,113,040

リース料	1,382,040	460,680
賃借料	1,981,006	1,865,495
車両費	6,211,439	6,982,883
工事・修繕費	3,730,012	2,570,549
保険料	5,498,299	4,303,174
会議費	2,572,046	1,396,514
接待交際費	368,772	540,774
諸謝金	176,800	1,696,737
諸会費	501,334	632,929
新聞図書費	73,864	90,631
印刷製本費	31,146,750	4,023,010
雑費	140,114	63,061
支払手数料	15,879,283	4,834,896
租税公課	1,050,000	1,144,233
為替差損	0	0
期首書籍	0	625,149
当期書籍仕入高	60,000	1,386,796
期末書籍	0	-614,985
他勘定振替	0	-1,290,332
当期商品仕入高	75,000	0
減価償却費	406,204,994	81,923,298
【管理費】	50,302,525	40,365,110
人件費	15,683,525	9,282,364
業務委託費	4,156,000	6,214,676
通信運搬費	1,180,000	1,084,460
諸謝金	0	0
水道光熱費	612,000	521,541
旅費交通費	300,000	243,352
研修費	10,000	0
会議費	15,000	2,573
接待交際費	0	0
消耗品費	850,000	380,969
印刷製本費	480,000	570,062
工事・修繕費	0	153,868
賃借料	0	0
地代・家賃	7,860,000	7,942,270
租税公課	20,000	9,850
諸会費	336,000	391,800
リース料	396,000	396,000

支払手数料	17,950,000	12,690,242
新聞図書費	0	0
車両費	0	0
保険料	285,000	274,830
慶弔費	0	0
広告宣伝費	0	0
雑費	148,000	193,320
減価償却費	21,000	11,366
為替差損	0	0
雑損失	0	1,567
当期経常支出合計 B	1,346,587,308	814,310,818
当期経常増減額 A－B	-72,341,308	1,190,846,704

補足：減価償却費の予算計上について

本年度の予算には、約4億円の減価償却費が含まれております。

減価償却費は、資産の取得時に一括で支出された金額を、耐用年数に応じて会計上按分するものであり、予算上では費用として計上されますが、実際のキャッシュアウトは発生しません。

そのため、会計上は赤字となっているように見えますが、資金繰りの面では大きな影響はありません。

第5号議案

会 費 金 額 変 更

会費金額を下記のとおり変更する。なお、本変更は運営コストの上昇及び制度の簡略化を考慮し定めるものとする。

(現行)

区分	正会員	賛助会員
医療従事者	20,000 円	18,000 円
一般	10,000 円	10,000 円
学生	10,000 円	6,000 円
法人会員	100,000 円	60,000 円

(変更後)

区分	正会員	賛助会員
医療従事者	20,000 円	18,000 円
一般	10,000 円	10,000 円
学生	10,000 円	10,000 円 ※変更
法人会員	100,000 円	100,000 円 ※変更

(主な変更点) 学生の賛助会員会費を 6,000 円 から 10,000 円 に変更する。法人会員については、正会員・賛助会員の区分を統一し、いずれも 100,000 円 とする。

(適用時期) 本変更は、2025 年7月1日より施行する。

新規入会者については施行日以降直ちに適用し、既存会員については次回の更新手続時より適用する。

第6号議案

役員改選

新役員候補者

(敬称略)

理事(5名)

理事 吉岡 春菜 (よしおか はるな) (重任)

理事 神白 麻衣子 (こうじろ まいこ) (重任)

理事 西井 敏恭 (にしい としやす) (重任)

理事 榊 淳 (さかき じゅん) (重任)

理事 永田 暁彦 (ながた あきひこ) (新任)

▼新任理事プロフィール

永田 暁彦(ながた あきひこ)

株式会社ユーグレナの未上場期より、取締役として事業戦略・財務・バイオ燃料領域を主に管轄。2021 年より同社の CEO に就任し、全事業執行を務める。2024 年同社を退職。

2015 年、社会課題解決に資するディープテック投資を推進するリアルテックファンドを設立。2024 年、同ファンドを運営する UntroD Capital Japan の代表取締役社長に就任した。

日本初の NPO を母体とするソーシャルインパクト IPO を果たした雨風太陽の創業および経営や、ヘラルボニーの経営顧問を務めるなど、資本主義におけるソーシャルインパクトの実現に注力している。

監事(1名)

監事 大橋 秀夫 (おおはし ひでお) (重任)